

## 9

## 一般社団法人 日本駆け込み寺

□公開日時:平成 24 年 6 月 25 日(月)

□相談年度:平成 23 年度

## ■娘を殺して自分も死のうと思いつめた父親■

### ～理不尽な理由で娘から暴力・暴言を受ける～

親に暴言、暴力、奇行を繰り返す娘は弁護士を入れて抵抗したが……。広島県に住む竹下さんは、どこへも相談できず、新幹線に乗って、新宿歌舞伎町にある駆け込み寺までやってきた。

- 仮名：竹下さん
- 年齢：70歳
- 性別：男性
- 問題：家庭内暴力

#### 【どこにも相談できずに】

もしあのままだったら本当に今ごろどうなっていたか。父親は娘に我慢できなくて、「刃物を持っていくぞ！」と言っていたくらいだから刃傷沙汰になっていたかもしれない……。竹下さんは、妻(66歳)と娘(36歳)と孫の4人暮らし。娘の家庭内暴力に悩み「娘を殺して自分も死にたい」と言って相談にきた。

#### 【逆恨みする娘】

4年前に娘が離婚し、当時2歳の子供を連れて実家に戻ってきた。それからまもなくして、「結婚したい」という男性を連れてきた。しかし、離婚してまだ日が浅いこともあり、両親は「何が結婚だ！」と猛反対して破談となった。それからしばらくして娘はその男の子供を妊娠していることがわかり、両親も「子供ができたんじゃない」としぶしぶ結婚を認めたが、一度破談したふたりの仲は戻らず、娘は未婚のままに出産した。

娘は「あんたたちのせいだ！私は結婚しようと思っていたのに妨害した。だから男が逃げたのだ」と両親を責めた。そんなことがきっかけで、娘は異常行動をとるようになった。

「死ね！殺す！」と言って包丁で皿を切りつける。両親が食事をしていると、後ろからマヨネーズの容器を持ち、両親の頭にマヨネーズをかける。ケチャップを床にまき散らす。

母親には暴力をふるわないが、父親には暴力をふるう。「どけ！」「邪魔！」と言われ、足でけとばされるのだ。両親はもう生きた心地がしなかった。

#### 【現場写真や録画が証拠になる】

竹下さんは相談に来るときに、家の中の状態を写真で残していた。それを見せてもらったが家の中は荒れ放題で床や壁のあちこちに傷があった。

後日、娘は弁護士に相談に行ったらしい。弁護士を通して、「今回の件に関しては、親に原因がある。私のさまざまな奇行は実は演技だ。親は私の人生を台なしにしたのだから、面倒を見るべきじゃないか。それなのに、第三者を入れて自分を追い出しにかかっている。この前は監禁施設に入れられそうになった。乳飲み子を抱えた状態でそんなことをするなんてひどすぎる」とあることないことを言ってきた。

それで私は、娘の主張を鵜呑みにしていた弁護士に、「これが普通だと思う？」「おたくさん、娘のこと本当に知っているの？実はこういう奇行癖があるんだよ」と言って、竹下さんが持ってきたグチャグチャの部屋の写真を見せた。娘の主張をひっくり返すような証拠写真で、弁護士も絶句していた。

結局、弁護士は実情を理解し、こちらの味方になって娘を諭した。私が娘の誓約書がほしいとお願いしたら、弁護士は「一切暴力はふるいません。働きます」と書かせてくれた。その弁護士はとても物分りのいい人だった。しかも、娘の悩みや将来への不安を聞いてやっていた。そのことが娘の気持ちを落ち着かせたようだ。そして娘は、怖そうな人間(つまり私)が親の味方になり、弁護士まで説得してしまったことで、「もう自分の思い通りにならない」と思ったらしい。それに娘だってだれかに止めてもらいたかったのだ。

それから、暴力はピタッと止まった。“人を見て法を説く”、これが私のやり方だ。だから、その後の勝負は早かった。



仙台国分町にて、駆け込み寺の看板を取り付ける、初代住職の齋藤公志。

#### 【ここが POINT】 .....

人生でうまくいかないことがあると、「親の育て方が悪かった」と親を恨む人は多い。親のほうも、子供が家庭内暴力や引きこもりといった問題を起こすと、「私の育て方が悪かったのかもしれない」と悔やんで、子供に甘くなってしまう人が多い。もちろん「育て方」には問題はあったかもしれないが、昔のことをあれこれ思い悩むより、これからのことを考えることに時間を使うべきである。特にこの事例では、娘はすでに30歳を過ぎた大人である。「親の反対で結婚できなかった」なんて逆恨みでしかないのだから、親が責任を感じる必要はない。娘もいつまでも親を逆恨みしていたのでは前に進めない。このことがきっかけになって娘もようやく将来のことを考えられるようになったはずだ。このような事例は現場の写真や録画したり録音したりしておくことをすすめる。このケースのように解決の糸口になる場合もある。